

十周年、おめでどうございませす

高村光太郎連翹忌運営委員長 小山 弘明

「智恵子のまち夢くらぶ」さんの結成十周年、おめでどうございませす。いつも同じようなことを言ったり書いたりしてはいますが、やはり地元の皆さんの努力がなければ、智恵子の名も忘れ去られてしまひませす。そうならなひたれに、今後とも、より一層の活動の活性化をよろしくお願ひしませす。

当方、今年は五回、二本松にお邪魔致しませす。五月の生誕祭朗読、六月には女川への研修で、九月は坂本富江さんの特別授業で油井小学校に、十月にはレモン忌での講演、さらに「みんなで語る『智恵子抄』しゃべり場」。「しゃべり場」の日に、は菊人形と、智恵子記念館での紙絵の実物の展示も拝見しませす。訪れるたびに違ひた魅力を見せ

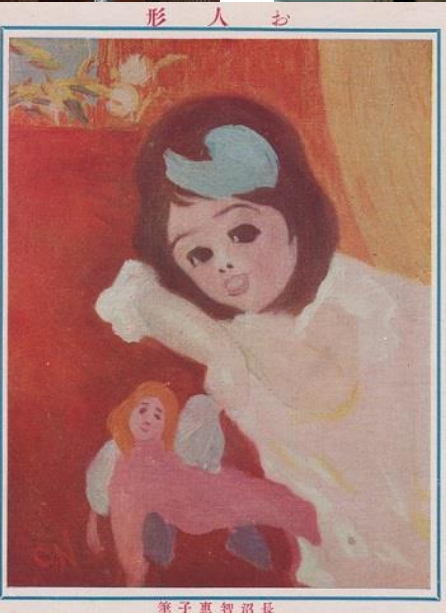


編著者注：文中の雑誌「少女世界」は智恵子記念館に寄贈され、展示されておひませす。



てくれる二本松の街が、自分は大好きでせす。そしてそこに住むすてきな皆さんも。

最後にお知らせでせす、智恵子記念館に、明治四十四年の雑誌「少女世界」に掲載された、智恵子が描いたカラー口絵のページを寄贈しませす。是非ご覧ください。



祝辞

二本松市長 新野 洋

智恵子のまち夢くらぶにおかれましては、発会一〇周年を迎えられましたこと誠にめでとうございます。貴会が、一〇周年を迎え、なお一層の飛躍・発展を期して記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く心からお慶び申しあげます。

また、発会以来、講演会やコンサートの開催、そして「智恵子純愛通り」愛称記念碑の建立など、数多くの事業を成功に導いてこられましたのは、代表及び会員の皆様の熱意と努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

さて、智恵子と光太郎の純愛が多くの人々に感動を与え、今日でも風化することなく、世代を問わず、人々の心に息づいていることは、正に奇跡に近いものであると思っております。智恵子の生家及び智恵子記念館は、今でも多くの来館者を迎えその関心の高さに改めて驚かされております。

市といたしましても、智恵子さんの魅力を積極的に

発信し、智恵子のふるさととして輝くことができるまちづくりを皆様と一緒に考えてまいりたいと思っております。貴会におかれましては、これからも地域の中心にあつて、智恵子さんの顕彰はもちろん、智恵子のふるさとにふさわしいまちづくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々の充実発展と会員皆様のご活躍をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝辞

二本松市市議会議長 中田 涼介

このたび、智恵子のまち夢くらぶが、智恵子生誕の地として、高村光太郎・智恵子夫妻の顕彰活動とそれに相応しいまちづくりを寄与することを目的に会発足後一〇周年を迎えられ、ここに記念誌が刊行されますことは、誠に意義深く、心からお祝いを申し上げます。

また、この一〇年間、本会目的達成のために積極的に活動いただきました会員、会友の皆様方のご尽力に對しまして、深甚なる感謝と敬意を表する次第であります。

愛と芸術に生涯を捧げた光太郎・智恵子夫妻が残した不朽の詩集「智恵子抄」や多くの紙絵は、如何に時代が変遷しようとも、少しも色褪せることなく、人々の心を打ち続けておりますことは、まことに素晴らしい限りであります。

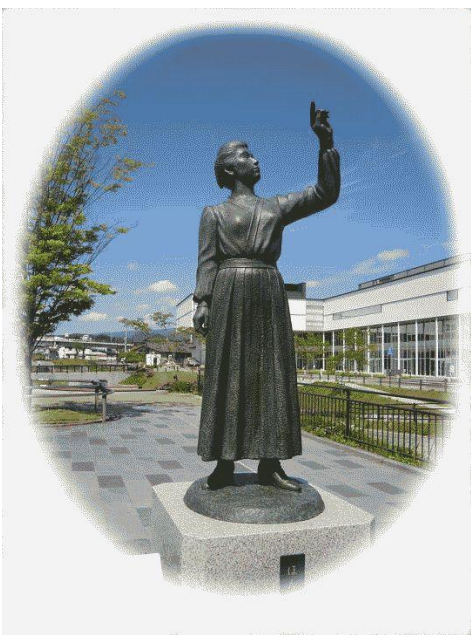
それはまた、私達二本松市民にとりまして大きな誇りであるとともに、智恵子の生家、記念館、鞍山山と智恵子の杜公園など、智恵子純愛通りの界限は、本

市にとって大変価値のある観光資源でもあります。

智恵子のまち夢くらぶの皆さんは、智恵子生誕のこのまちをこよなく愛し、智恵子の生誕祭をはじめ、純愛通り記念碑の建立、智恵子講座の開催など、今日まで幅広い活動を通して光太郎・智恵子の世界を多くの人々に語りかけては共感を誘い、着実にその成果を挙げて来られました。

智恵子ファンがさらに増え、純愛通りが多くの人で賑わい、地域振興に大きく寄与されますことを心からご期待申し上げます。

結びに、智恵子のまち夢くらぶのますますのご発展と、会員、会友皆様方のご健勝とご多様を心からご祈念申し上げます、祝辞といたします。



祝辞

二本松市教育長 小泉裕明

智恵子のまち夢くらぶ発会一〇周年、おめでとうございませう。数々の記念事業を企画・実施され、また、ここに記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く心からお慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、日頃より各種事業を通じて、本市の芸術文化の振興にご尽力いただいておりますこと心より御礼申し上げます。

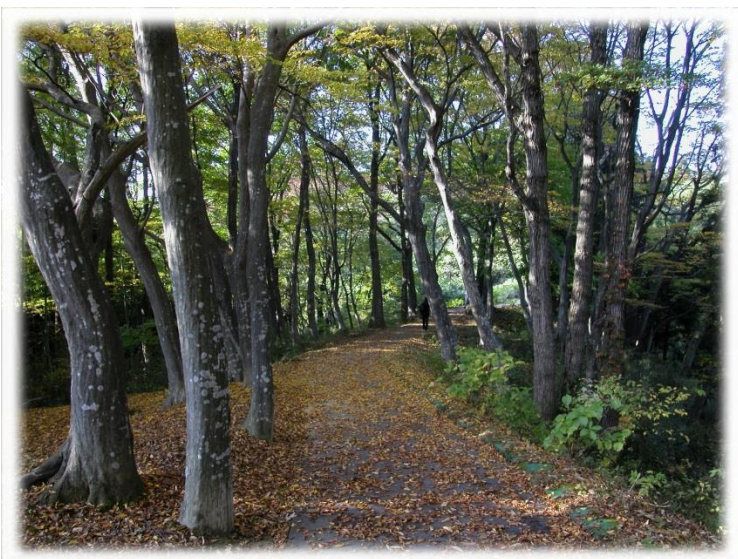
本市において毎年実施しております智恵子のふるさと小学生紙絵コンクールは、今年一八回を迎えました。毎回三〇〇点を超える応募があり、非常に注目度の高い事業となっております。本年は智恵子・光太郎結婚一〇〇年を記念して、高村光太郎記念館がある岩手県花巻市教育委員会の協力のもと、花巻市の子供たちからも数多くの作品を出品していただき、今後の両市の交流の懸け橋となる意義深いコンクールとなりました。

これを契機として、花巻市との連携を図り、さらに

地域ぐるみの交流を深めながら、お互いの顕彰事業の機運の高まりとなるよう取り組んでまいりたいと考えております。

貴会の会員の皆様におかれましては、地域での活動を通じまして、更なるご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴会が会員一同のご協力のもと、益々発展されますことを祈念いたしましてお祝いのことばとさせていただきます。



発会一〇周年記念誌発刊によせて

福島県議会議員 本田 朋

福島県議会議員の本田朋です。「智恵子のまち夢くらぶ 発会一〇周年記念誌発刊」によせて、心より御祝いと御慶びを申し上げます。

常日頃、智恵子のまち夢くらぶ関係各位には二本松市、とりわけ安達地域のまちづくりと振興発展にご尽力いただいております事に、地元県議として感謝を申し上げます。

「継続は力なり」一〇周年に至るまでに、地域の方や関係者の皆様が、まちづくりへの大きな情熱を抱きながら、様々な諸課題に向き合い、大震災も経験しながらも未来を見据えて活動を続けてこられた事に改めて敬意と感謝の意を表します。

ご承知の通り、IT化、グローバル化や少子高齢化などが進展し、地域を巡る社会経済は大きく変化しておりますが、活力ある地域、安心安全に暮らせる地域の創造に向けて、行政、住民や企業団体などが、各々

の立場で活動しながらも連携を深め、お互いに役割を担い、補完協働してまちづくりを進めていくことは、益々重要になっております。

私、本田朋も今年はアメリカの財団からご招待を受けて政府関係者や現地に政治家、大学教授、大手企業幹部らを対象にした講演会で、福島県の危機対応などについて講演する機会を頂戴し、多くの方々との意見交換をして参りました。また、まちづくりや都市計画に携わる専門家ともお会いして、日本の地方が抱える様々な問題についても意見交換をして参りました。

今後とも、歴史に残る、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の災害対応という経験を活かしながら、福島県民の思いを県内外に発信して参りたいと思います。

智恵子のまち夢くらぶ会員皆様におかれましては、その責任と使命に誇りを持ち、また、教養を積み重ね、二本松市復興とまちづくり先陣の決意をもって一層のご精進をされますよう切望いたしまして、お祝いの御挨拶いたします。

智恵子のまち夢くらぶ 発会一〇周年 バンザイ

実践躬行一〇年を祝して

智恵子の里レモン会

会長 渡辺 秀雄

智恵子のまち夢くらぶの皆さん、創立一〇周年を迎えられたこと誠に慶ばしく、お祝い申し上げます。

全国各地に広がった町おこしブームの広がった平成一〇年代に「福島県地域づくり総合支援事業制度」が「発足したかと思えます。その活用に着目して発足したのが「智恵子のまち夢くらぶ」だったと記憶しております。その慧眼に拍手を、その後自主独立の活動を継続されてきた実績にエールを送ります。

東北本線の安達駅もなかった明治の遙かな昔、若干一七歳のお嬢様が上京してヨーロッパ文明に触れ、セザンヌなどの洋画に魅せられて女流画家を志したことは良い意味で新しい女の名に恥じない生き様と映ります。

帰省する東北本線の車中でずっと読書していたというほど智恵子は読書家であったと伝えられています。

比較的健康に恵まれた大正末期に書かれた数々の文章は智恵子の語彙の豊かさに支えられた素養、伶俐さ

を伝えてくれます。

さばきのつかさ

光太郎に審判官と言われた彼女が精神障害の不幸に襲われ、その死後に「智恵子抄」によって甦り、人口に膾炙された智恵子の存在は悲劇にヒロインとしてだけでなく、幅広く長く語り継ぐに値する郷土の誇りです。

また、智恵子を巡る人物、郷土の先陣にも光を当てていけばその幅も広がっていくだろうと感じます。駄弁を弄しましたが、レモン会も夢くらぶも智恵子を顕彰する究極の夢は同じです。

その双翼を互いに共有し、後世にこの矜持を伝えていければ幸いです。(H二六・一一記)

